

力いっぱい 楽しんで

県立諫早特別支援学校創立50年

創立50周年を迎えた諫早市真崎町の県立諫早特別支援学校(峯信幸校長、120人)で15日、記念式典があった。在校生代表が力いっぱい生きる決意を語り、ソフト開発で社会貢献している卒業生が講演で在校生らにエールを送った。

養護学校を卒業して」 吉村隆樹



生徒を代表してあいさつをする豊村生徒会長
—諫早特別支援学校

記念式典で卒業生ら 在校生にエール

同校は1964年、県立諫早養護学校として同市永昌東町で創立。翌年、本校が現在地へ移転、66年に島原分校が設立された。これまで小学部761人、中学部789人、高等部727人を送り出してきた。

全校生徒や宮本明雄市長など約350人が出席。生徒による和太鼓の演奏で幕開け。峯校長が「県内初の特別支援学校。障害者の自立や社会参加への新しい考え方が芽生えた時代に創立された」とあいさつ。

豊村豊生徒会長は「双子で生まれたがもう1人は生きていけなかった」と語り、「2人分生きる思いで精いっぱい学んでいる。周囲に感謝したい」と語った。

式典後は、1983年度卒業生の吉村隆樹さん(佐世保市)が講演。吉村さんは、自宅でパソコン関係の仕事の傍ら、言語障害がある人の代わりに声を発するソフトを開発し、無料でホームページで公開している。

自身に言語障害があり、自身のソフトを使って講演。「青春時代の真ただ中。楽しんでほしい」とエールを送った。

(相良磨紀)